

※本資料のフォントは、SDGs 推進の一環として当市がすでに導入している株式会社
モリサワの「UD(ユニバーサルデザイン)フォント」を使用。



GCI

Green Creative Inabe

グリーンクリエイティブいなべ

～グリーンインフラ商業施設

「にぎわいの森」から、

カジュアルなSDGs推進を世界へ～

Inabe City

三重県 いなべ市

地域の実態①……いなべは、今、SDGs大交流時代へと突入した



グリーンインフラ 「にぎわいの森」オープン

2019年5月18日、市の新庁舎隣に行政の**グリーンインフラ(※1)**商業施設「にぎわいの森」がオープン。パン屋、ホットドッグ屋、タピオカ等のカフェ、デリ・フードブティックの店舗が集い、**年間で44万人超の来場者**でにぎわう。

ここを拠点にいなべ市では、**カジュアル(※2)**なSDGsに資するまちづくり「グリーンクリエイティブいなべ」を推進している。

※1 いなべ市における「グリーンインフラ」とは

いなべ市では未活用の森林や自然の機能をうまく利用した「にぎわいの森」をシンボルとする商業・観光交流拠点整備を言う。

自然のエネルギーを活用し、CO2の削減に貢献している。

また、土砂災害防止、地震減災、獣害予防等といった機能と、緑豊かで都市住民を魅了する付加価値がある。

※2 いなべ市のSDGs推進における「カジュアル」の定義とは

SDGs 推進を論理的に三側面から説明するのではなく、「オシャレ」「かわいい」といった共感が生まれるデザインや事業を通して幅広い世代に訴求すること。

格式ばらず、SDGs 事業に気軽に来場、参加したくなる機運を醸成する。



地域の実態②



自律的好循環形成、グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」

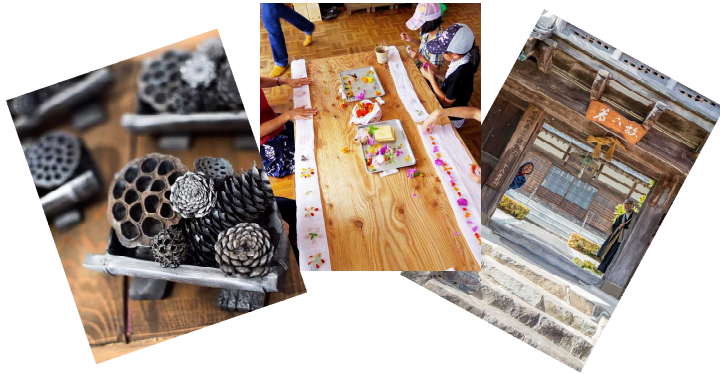
にぎわいの森はもともとあった地形を利用して季節風を取り入れ、雨水を貯留できる造りとなっている。また貯留された雨水はトイレの水等に利用し、地中熱も活用してCO2排出の削減に貢献している。

2018年のいなべ市全体の総観光入込客数 **431,632人**

2019年5月18日(オープン)～2020年3月末

にぎわいの森のみの入込客数(レジカウント算出) **441,487人**

以上より、いなべ市史上初の規模でSDGs大交流時代が訪れている。



にぎわいの森から新しいまちづくり

いなべ市ではSDGs だからこそできる自然や環境によくてカジュアルなまちづくりを開始。このコンセプトを「グリーンクリエイティブいなべ」として市内外へアピールし、共鳴したプレイヤーがカジュアルな店舗をオープンさせるなど、新たなムーブメントが起きている。

全国で6番目となるフェアトレードタウンに認定

2019年9月、全国で6番目となるフェアトレードタウンに認定された。今後も、市民、企業、商店、地元金融機関、行政が一体となってフェアトレードの輪を広げ、不利な立場、弱い立場におかれた途上国の生産者の自立や地産地消、地域経済の活性化にも貢献する。



本申請の背景にある課題と指針

にぎわいの森を建設した
私たちの本懐は、
SDGsである。

1. 減災のため、荒廃した山村の グリーンインフラ化とビジネス好循環化

いなべ市では約58%を占める林地面積の多くが未活用となっている。

異常気象による災害対策も含めて、「にぎわいの森」を先駆例とした森林放棄地のグリーンインフラ化として活用し、ビジネスの創出、好循環化へつなげていく。

2. 若者の流出防止と移住促進、起業に向けた、カジュアルな地方都市化

SDGs だからこそできる自然や環境にいいカジュアルなまちづくり「グリーンクリエイティブいなべ」を深化し、「にぎわいの森」を広域化。

「いなべのSDGs=オシャレでカッコいい」という意識が生まれる事業を加速し、若者の流出防止と移住促進、そしてその先の起業へとつなげる。

3. 空き家と市内経済空洞化の解消、多様性のある雇用の創出

空き家を活用して地場産品による出店等を後押し。移住者に多様性のある雇用とビジネスチャンスを生み出す。またフェアトレードタウンとして市民にエシカル消費(倫理的な消費)や地産地消を促し、市内経済の空洞化を解消する。

自治体SDGsモデル事業の概要

グリーンクリエイティブいなべ

～グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」から、カジュアルなSDGs推進を世界へ～

本事業は、いなべ市における鈴鹿山脈の麓の広大な森林放棄地を整備して、課題解決をするだけに留まらず、カジュアルで若者に支持を得るスポットとしてまちづくりを実施。市民や移住希望者が自分の特性を活かして牧場や、アクティビティ、飲食店など地域資源を活用した店舗を群生させ、**山辺(※2)**をレジャーゾーンとして、新たに価値を持たせる。

① 経済面の取組

- ・グリーンクリエイティブいなべ推進事業
→ カジュアルなまちづくり、移住促進
- ・グリーンクリエイティブいなべ施設整備事業
→ 地域資源活用商品の販売強化
- ・小規模事業者支援事業
- ・新規事業等事前調査事業

② 社会面の取組

- ・元気みらい都市いなべ推進事業
- ・グリーン・ツーリズム推進事業
- ・農業生産における中山間地域等直接支払事業
- ・福祉バス運行事業
- ・藤原岳自然科学館自然教室事業
→ 山の自然に触れる
- ・ICT活用事業
→ 教員と児童生徒のICT配備と支援

※2 山辺とは

鎌倉・湘南の海辺を連想、関連付けるイメージとして、本申請では里山や麓ではなく「山辺」という言葉を用いる。気候的に鈴鹿山脈の影響を受け、視覚的に山の存在を強く感じられる場所を指す。

③ 環境面の取組

- ・農作物有害鳥獣対策事業
- ・希少動植物保全事業
- ・不法投棄防止啓発事業
- ・環境調査事業
- ・ごみ減量化推進事業

三側面をつなぐ統合的取組

～いなべのグリーンフラッグを山辺まで～

- ① 移住希望者や市民が個々の特性を生かす体制づくり
- ② にぎわいの森から山辺へカジュアルなまちづくりの拡大
- ③ グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」を先導例として、山辺に自然や地域資源を活用した「遊び」ゾーンを設置



三側面をつなぐ統合的取組【補助金対象事業】①

いなベグリーンフラッグを山辺まで！
～強靱化とカジュアルを兼ね備えたグリーンインフラが、山辺を変える～

ワクワク、オシャレ、カワイイを放棄された山辺へ



森林ノ牛乳

森林ノアイス

市の中心にある森林放棄地を活用したグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」を先導例として、鈴鹿山脈の山辺に自然や地域資源を活用した「遊び」ゾーンを、官民金連携で設置。

放棄された山辺に、グリーンインフラとして自然活用のアクティビティや地元食材の飲食、地域資源活用の商品販売などの店舗群を構成する。

三側面をつなぐ統合的取組【補助金対象事業】②

いなベグリーンフラッグを山辺まで！
～強靱化とカジュアルを兼ね備えたグリーンインフラが、山辺を変える～

1. 鈴鹿山脈等の山辺カジュアル化コンセプトブックの制作



※この冊子はイメージです

山辺のカジュアルなまちづくりをPRし、グリーンインフラ商業施設ゾーンを設置する魅力を訴えるコンセプトガイドブックを制作。

湘南・鎌倉をモチーフに、SDGs未来都市として「海辺といえば鎌倉・湘南、山辺といえはいなべ市」というイメージ付けを浸透させる

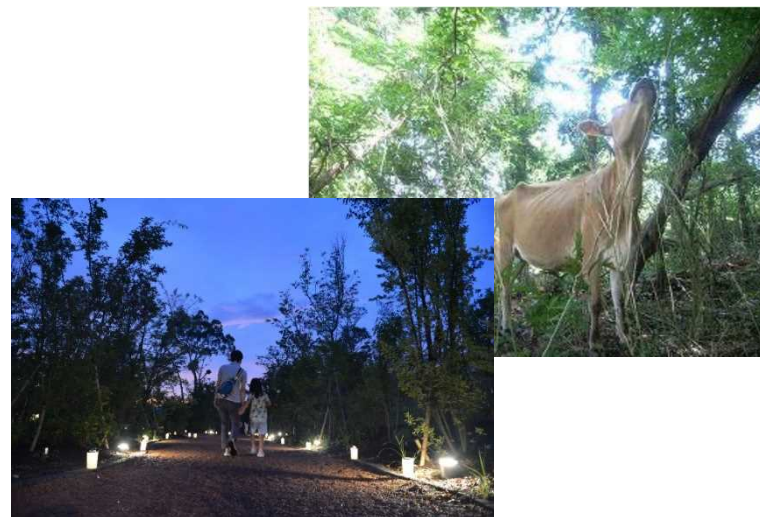
また、個々の特性を生かし、フェアでボードレスで自己実現できるスポットとして、広くアピールする。

2. 山辺の調査、拠点整備

市中心地にあるにぎわいの森と対をなす山辺のエリアを選定。

カジュアルな山辺として店舗誘致や自然の遊びに活用できる候補地の事前調査を実施する。

そして、計画等を作成の上、拠点となるエリアや施設を整備する。



三側面をつなぐ統合的取組【補助金対象事業】③

いなベグリーンフラッグを山辺まで！
～強靱化とカジュアルを兼ね備えたグリーンインフラが、山辺を変える～

3. グリーンインフラ商業ゾーンの設置

開発するエリアや拠点が整備されたら、周辺の休眠施設や空き家、空きスペース等を活用して、自然と調和したグリーンインフラ化を進める。

牛乳を生産する牧場や、地域資源活用商品を販売する店舗、キャンプ・カートラベル・マルシェの開催場所の整備等を通して出店を規模する若者の移住を促進する。



4. 山辺の地域資源活用による遊びのビジネス化



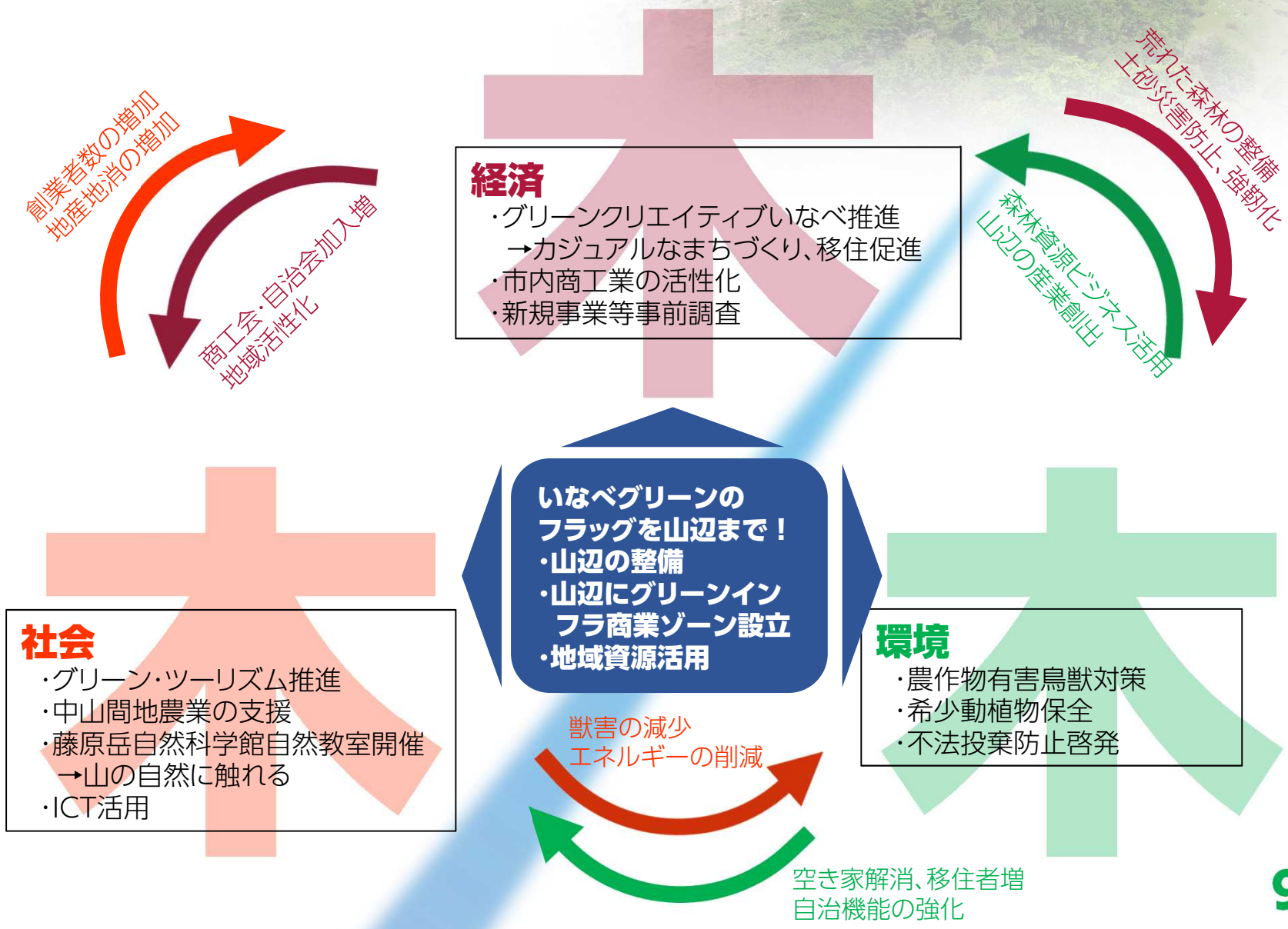
いなべ市にある鈴鹿山脈等、山辺やその周辺エリアは、地域資源が豊富。未活用のままになっている薬草、野草、中硬水の湧水(軟水ではないメリットがある)、木材、ジビエ等を使い、山辺ならではの遊びをビジネス化していく。

▲地元の薬草・野草の商品化

▲地元の杉を使ったBluetoothスピーカー制作



経済、社会、環境の各側面の相乗効果



自律的好循環の具体化に向けた事業の実施①



山辺のエリア(鈴鹿山脈沿い)

この市内広域回遊
が、自律的好循環の
鍵となる

中心市街地
にぎわいの森

先行して一定の成果をあげているグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」のノウハウを生かし、次の拠点として鈴鹿山脈の麓に地域資源を有効に活用した商業ゾーンを整備。

空き家や休眠施設、荒廃した森林を官民金連携で整備し、移住希望者や市民を呼び込んで、にぎわいの森の両輪となりうる店舗を誘致する。

山辺のさまざまな課題を解決し、市内広域回遊を実現させる。

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施②

